

令和8年8月27日



学校だより 9月号

横浜市立瀬谷さくら小学校

校長 場家 誠

学校教育目標 「自分大すき 友だち大すき このまち大すき さくらの子」

(知) 困難なことにもあきらめずに挑戦する子に育てます。

(徳) 物事の善悪をきちんと判断し、辛抱と我慢のできる子に育てます。

(体) 自分や人の命を大切にする子に育てます。

(公) 小さなことでも、社会に役立つための行動ができる子に育てます。

(開) 様々な人とのコミュニケーションを通じて、社会への視野を広げる子に育てます。

「仲間・チャレンジ・さくらスマイル」

校長 場家 誠

9月が近づき、日差しの強さの中に、ふとした涼風が混じってくれるといいのですが、まだまだ暑い日が続いています。保護者や地域の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

学校だよりを書くにあたり、はじめに、この夏甚大な被害をもたらした熊本地震や千葉豪雨をはじめとする自然災害により犠牲となられた方々に深く哀悼の意を表しますとともに、現在も不自由な生活を余儀なくされている被災者の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。私自身も、災害の記憶や教訓を風化させることなく、いついかなる時も子どもたちの命と安全を守り抜くことの重要性を考えずにはいられない夏となりました。

さて、長い夏休みを終え、学校には再び、子どもたちの元気いっぱいの笑顔と弾むような声が戻ってきました。

かつて2学期と呼んでいた 9～12月の4か月間は、日常の授業に加えて、運動会（10月31日開催予定）やさくハピ（全校たてわり活動）、人権週間の取組等が学校生活の中心になっていきます。それらの活動を通して、子どもたちには、自らのもつ力を存分に発揮するとともに、難しいと思うことにもどんどんチャレンジし、そして多くの友だちと心を通わせる、そんな経験を積み重ねてほしいと思います。

というのも、今年も高校野球を見ていて、いろいろと感ずることがあったからです。

智辯学園和歌山高等学校の優勝で幕を閉じた今年の夏の甲子園でしたが、令和の怪物と称される織田投手擁する横浜高校の活躍もあって、私も毎日興奮しながら見ていました。結果的に横浜高校は、準決勝で智辯和歌山高に負けてしまいましたが、織田投手が試合後、泣き崩れるチームメイトに笑顔で声をかけているシーンを見て、改めてすごい高校生だなと思いました。本当は相当に悔しかったはずですが、彼の姿からは悔しさというよりは、負けた直後であるにもかかわらず、すぐにでも「次の一歩」を踏み出そうとする「前向き」な気持ちが感じられたのです。彼がそんな気持ちになれたのは、きっと仲間と心をつなげて練習に打ち込んできた日々や苦しい局面に直面しても、あきらめずに挑み続けてきた経験があったからだと思います。

この秋、さくら小でも「仲間とともにがんばる」子どもたちの姿がたくさん見られるようにそして、子どもたちが決めた今年の学校スローガン「みんなで広げよう“さくらスマイル”」を実現させられるように、教職員一同全力でサポートしてまいります。

保護者の皆様、地域の皆様、どうか引き続き、あたたかいご支援とご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

職員に関するお知らせ

・9月1日付で、学校司書として、西田絵美子が着任します。

GREEN×EXPO2027

開幕まで あと204日

